

## はじめに

千代田区立日比谷図書文化館は、東京都から歴史と伝統のある旧都立日比谷図書館の移管を受けて、千代田区が平成23年11月4日にリニューアルオープンした複合文化施設です。

民間5社のコンソーシアム(指定管理者)が運営にあたっています。

千代田区の区民は現在約5万人ですが、日比谷周辺は居住区民が少なく、住民の気軽な図書館利用には少し遠い場所といえます。このような条件ですが、日比谷公園の緑に囲まれたすばらしい立地環境のもと、約85万人におよぶ区内在勤・在学者、とりわけ館周辺の官庁街、オフィス街の10万人をこえるビジネスパーソンの「学びの場」になるよう努力しています。

当館は、従来の図書館には無い魅力を備えた「四つの機能」が織りなす文化空間、学びの拠点を目指しています。

「四つの機能」とは、館全体の基盤となる「図書館機能」、千代田区の文化資源の活用、成果の展示、およびコンソーシアムが企画する特別展などの「ミュージアム機能」、特別展示室やホールなどの施設を活用する「文化活動・交流拠点機能」、そしてこれら三つを発展的につなぐ役割の「アカデミー機能」です。

開館から1年半、コンソーシアム各社の強みを生かしながら、各部門間の相互連携度を深め、館全体で「四つの機能」の達成度向上に努めております。

リニューアルオープンから半年余りは来館者の数が伸び悩んでおりましたが、広報活動の強化や「日比谷カレッジ」「特別展」などの話題性のある講座、イベント等の開催により認知度が上昇し、それにつれ来館者数も着実に増加しています。

しかしながら、私たちが目指しているところまでは質、量ともにまだまだ遠いものがあることは重々承知しております。今後におきましても、都心のオアシスの知の拠点をめざし、引き続き全館員あげてさまざまな努力を重ねてまいります。

関係各所におかれましては、本年報から平成24年度の実績をご覧いただきまして、ご指導、ご鞭撻をいただけますようお願いいたします。

平成25年6月

千代田区立日比谷図書文化館

館長 山岸 幸雄